

『100年』 作：ポチ子

『100年』 作：ポチ子

100年後には必ず死んでいる。

私も、

あいつも。

どんなに抵抗したって、

燃やされて、

白い灰の姿だ。

そうなるのは確実。

恨んだって、

呪ったって、

100年後にあいつはいない。

どんなに頑張っても、

それは変わらない事だから。

それならなんだか無駄な気がしてきた。

どうせ100年後には死んでいる、

あいつのことばかり考えるなんて。

— 終わり —